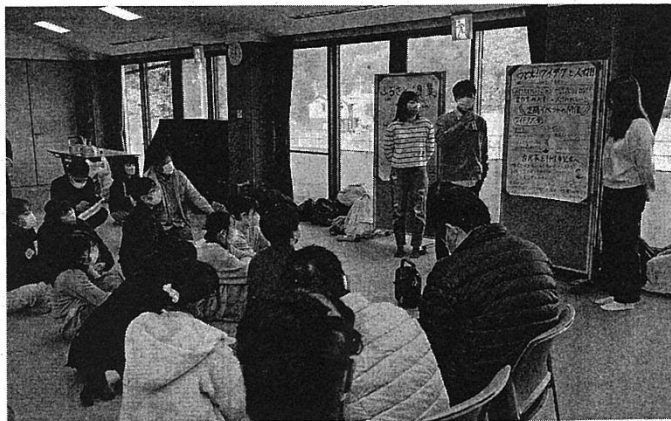


農業課題解決策を提案

神戸大農学部
実践農学入門

古市で農家に弟子入り

神戸大学農学部の1回生35人が、農家が抱える人手不足や重労働といった問題、課題への解決策や活性化策を提案する成果報告会が21日、古市地区コミュニティ消防センターであった。学生たちは「実践農学入門」の授業で古市地区の9軒の農家に1年間、弟子入りし、農業のイロハを学ぶとともに課題も探った。報告会では、農業ボランティアをすることで納税できる仕組みや、農業を手伝うことでポイントがたまり、そのポイントを使って市内で買い物ができたり施設で割引が受けられたりするアプリケーションの開発など、若者らしい柔軟でユニークな提案が飛び出し、盛り上がりを見せた。



今年一年の成果を報告する神戸大学生＝丹波篠山市波賀野で

同授業は14回目の取り入れられた古市地区での現
組み。今年度、学生を受地実習は5月上旬～11月

中旬までの5～7回にわ
たって行われた。

報告会には、酒井隆明
市長や市職員、受け入れ

農家、大学生と共に農業
体験を行った篠山東雲高
校の生徒ら合わせて約60
人が出席。東雲高を含む



農業を手伝うことでポイントがたまる提案を
する学生

10班が6分の制限時間内
で、手描きのポスターを
掲げて作業内容の報告や
課題解決に向けたアイデ
アを発表した。

住山の さんが

営んでいる「のりたま農
園」で農業体験をした4
人の班は、「万事解決！
ささやまポイント」と題
して発表。同農園は有機
農業に取り組んでいるた
め、除草作業の大変さ
と、助成金申請の際の複
雑な書類作成に手間取っ
ていることを課題と捉え
た。また、「人が集まる
場所を、有機農業を通し
てつくりたい」という
さんの願いをかなえる
仕組みを考えた。

専用アプリを通じて、
依頼のあった農家へ出向
き、農作業を手伝うほ
か、リモートで補助金申
請書類の書き方を支援す
るボランティアを行うこ
とで、その報酬としてポ
イントがたまる。このポ
イントを使って丹波篠山
の野菜や商品と引き換え
たり、丹波篠山市内の飲
食店や商業施設、デカン
ショ祭などの行事の際に
割引を受けられたりする

けにもなるとした。
最後に高齢者でも使い
やすいか、アプリの運営
や普及はどうするかなど
を問題点として挙げ、
「改善を重ね、丹波篠山
の魅力を全国に広げ、農
家と農業ボランティアを
結び、ささやまポイント
を通して、地域や食や農
業を支えていけたら」と
締めくくった。

2023年1月29日

丹波新聞